



## 1 港地区 防災集団移転 決定

- 近年度重なる江の川の増水・氾濫による被害を受けた美郷町港地区（5世帯13人）。住民総意の要望（2020年）を受けて、集団移転の早急な検討に着手
- ☆2021年8月 国土交通省「防災集団移転促進事業」（事業主体は町）を活用し、住民が希望する場所への移転を決定。住めなくなる前に移転する事前移転は全国でも例が無い。2024年度内の移転完了を目指す。



## 2 麻布大学が美郷町に進出【フィールドワークセンター新設】

- 130年を超える歴史のある生物・自然科学系大学。獣医師国家試験では毎年トップクラスの合格者数
- 美郷町とは、野生動物の研究、地域と協働した獣害対策など20年来の交流がある。
- ☆2021年4月 神奈川県相模原市の本学以外で初の拠点となる教育・研究サテライト施設「麻布大学フィールドワークセンター」（FWC）を開設。教授兼センター長が常駐し、積極的に地域や高大連携を開始し、大学生等も実習等で来町
- ☆2009年に邑智高校閉校となったが、この進出により「高校はないけど大学がある町」に。
- ☆県内高校生等を対象とした「縁結び入学試験（島根県特別入学試験）」を今年から実施
- ☆2023年度にはカリキュラムが大幅改編。FWCの授業が各学部で正式授業となり、常時30~40人の学生が入れ替わり滞在予定。



## 3 美郷バレエ構想 順調に発展中

- 鳥獣害対策の最新の情報や技術、人脈が手に入り、互いに刺激しあい新しいものが生まれる場所“有害鳥獣対策版シリコンバレー”を目指す「美郷バレエ構想」。自発的に様々な産官学民が美郷町に集い、連携し発展中。
- ☆2020年11月 日本を代表する企業の「古河電気工業株式会社」との獣害対策・防災の連携協定は大きな話題に。同社のAIなど最先端技術を活かした対策、課題解決を目指す。
- ☆2021年2月 産官学民や地域の連携・研究の橋渡し役となる町の外郭組織「おおち山くじら研究所」を設置 所長に獣害対策の第一人者「麻布大学江口祐輔教授」、顧問に「麻布大学田中智夫名誉教授」が就任
- ☆2021年4月 鳥獣害対策機器メーカー「タイガー株式会社」（大阪府吹田市）が、美郷町に進出（中国地方の拠点「美郷バレエ中国営業所」を設置）。地元雇用も生まれ、地域と連携した商品開発を進めている。
- ☆2021年11月 神奈川県大磯町が加わり、連携協定締結は12に【産（5）官（3）学（2）民（2）】

## 4 2030年国民スポーツ大会カヌー会場決定、カヌーの町づくりへ

- 「くにびき国体」（1982年）でのカヌー競技会場、バリ島マス村との交流（カヌー艇「ジュクン」づくり等）を通じ、カヌーが盛んになった美郷町
- ☆2021年3月 2030国体のカヌー競技（スプリント・スラローム・ワイルドウォーター）の開催地が、美郷町に決定。また、2025インターハイ（全国高校総体）の開催地としても、最有力候補
- ☆美郷町内に練習場がある島根中央高校カヌー部は、今年のインターハイで優勝。9月にカヤックフォアとカヤックペアの500mでジュニア世界選手権（ポルトガル）に日本代表として出場。
- ☆美郷町立邑智中学校カヌー部もJOCジュニアオリンピック全国中学生大会で4位に。

## 5 ICTの活用 【オンライン診療・オンライン帰省】

- ☆2020年12月 「NTT西日本」とICT活用に係る連携協定を締結
- ☆2021年4月 先端技術やICTを活用した課題解決に向けて「情報・未来技術戦略課」を設置
- ☆町内ほぼ全世帯に設置する双方向の映像端末（テレビ電話機能）を活用し、オンライン診療の試行を開始。また、スマホを持たない高齢者が町外親族と簡単に通話できる「オンライン帰省」サービスを開始



## 6 ゼロカーボンシティ先進地宣言

- ☆2021年6月 環境省「地域の防災・減災と低炭素化を同時実現する自立・分散型エネルギー設備等導入促進事業」を活用し、主要行政施設・避難所へ太陽光発電装置と蓄電池を設置（該当施設のCO<sub>2</sub>を80%削減）
- ☆電気自動車普及（国の補助に加え最大45万円、V2H設置にも補助。災害時の協力協定補助も）、住宅への新エネルギー設備補助（太陽光発電設備：最大24万円、蓄電池：10万円）といった、住民向けの充実した支援制度
- ☆2021年3月「ゼロカーボンシティ先進地宣言」～美郷町のカーボンニュートラル現在地は、2050年より未来～町内CO<sub>2</sub>発生量44,700t/年に対しCO<sub>2</sub>削減量211,000t/年（2021年2月概算推計）と既にカーボンニュートラルを達成

## 7 サテライトオフィス 「みさとと。ネスト」開設

- ☆2021年6月 昭和3年竣工のレトロ洋風な旧役場庁舎を活用し、サテライトオフィスを設置
- ☆5室のうち既に3室に事業者が入居。更なる需要に対応するため、内閣府「地方創生テレワーク交付金」高水準採択（採択は全国14自治体で町では唯一。うち高水準は4自治体のみ）を受け、今年度中に2階部分を改修し、7室を追加
- ☆名称の由来は、「テレワークからスタートし、近い将来、美郷町から全国へ、そして世界へ広がるスタートアップが生まれる【巣（ネスト）】となるように」



## 8 バリ島マス村との交流発展、バリ文化の発信地へ

- 日本の自治体で唯一、インドネシア・バリ島の自治体と友好姉妹都市協定（マス村）
- 四半世紀以上続く交流は（1993年～）、住民同士の民間交流を下地に、経済交流、文化交流に発展
- ☆民間交流 長く続く住民同士の交流、コロナ禍で苦しむ観光地マス村へ町民から寄付（2021年8月）
- ☆経済交流 技能実習生（4事業者9人が来町予定）による町内人手不足の解消・実習生の技能習得の場の提供、マス村へゴミ処理ノウハウの提供。コロナ禍での技能実習生の経済困難に対し町が支援
- ☆文化交流 バリ伝統楽器「ガムラン」を保有する全国で希少な町（寄託と寄贈）。日本最大規模の「ガムラン楽団」が結成され、「バリの音響く町」に。中学生同士のオンライン交流も実施
- ☆美郷町の“強み”を活かしたビジネスプランコンテストでは、日本最大のバリ島情報発信メディア「バリ島旅行のみかた」を運営する「Think a Phase 株式会社」のプラン“美郷町を日本一バリ島好きが集まる観光地にします！”を採択。

## 9 観光を取り巻く環境整備【石見ワイナリーホテル美郷・雲海予報】

- ☆2021年3月 石見ワイナリー株式会社（三瓶山東の原）が運営する「石見ワイナリーホテル美郷」が開業 高級感ある施設と美肌効果が高く特徴ある温泉（潮温泉）で町外客の誘因強化
- ☆ワイナリー施設や町内施設（健康増進・スポーツ施設、カヌー・キャンプ施設）、近隣等と連携し、三瓶圏域観光客100万人を取り込み、周遊・滞在型リゾートの町を目指す。
- ☆山の中に現れる海「雲海」。春と秋、夕焼けの綺麗な翌朝に発生する可能性が高く、発生を最長2週間先まで予測するシステムを鳥取環境大学の協力で開発【的中率80%】。「雲海予報」として公開中



## 10 ひなびた温泉日本一・「美肌県美肌町」

- 美肌県日本一といわれる島根県の中でも、美肌コンテンツ盛りだくさんの「美肌県美肌町」（商標登録）
- 美郷町の3つの温泉は、全て美肌成分豊富（天然系化粧水にも含まれるメタケイ酸）。また、山くじら、雲海、ポポー（幻の果実）、生はちみつ、どぶろく（特区認定）など、美肌効果の高い美肌コンテンツも充実
- ☆全国秘湯ファンが選ぶ「ひなびた温泉ランキング」（※）で、「千原温泉」が“ぶっちぎりの1位”に。「湯抱温泉」が41位にランクイン。

※「日本百ひな泉」みらいパブリッシング発行



## 美郷町

〒699-4692 島根県邑智郡美郷町粕淵168番地  
 TEL 0855-75-1211 FAX 0855-75-1218  
<https://www.town.shimane-misato.lg.jp/>